

# A New Form of *Saxifraga nipponica* Makino

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/00065667">http://hdl.handle.net/2297/00065667</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



Furthermore these factors involved in slopes will have to be considered from the three plant groups, that is, the terrestrial group on the marginal areas, and the group whose components keep their fixed lives, and the group whose components invade into the bottom after drainage on the littoral areas.

### 摘 要

筆者は広島県双三郡の一人工貯水池、霞ヶ池において、池底内傾斜角度の大きさが渇水後の池底植群の発達に対する一つの指標的要因になるのではないかという暗示をえた。

即ち、植群構造の著しい差を有する東側と西側斜面が、互いに著しい傾斜角度の差を示し、東側斜面においては傾斜角度が一般に大で、特に約  $20^\circ$  を限界として完全な裸地を出現していること、及び池底内優占種（ネザサ、カリマタガヤ、ヌマトラノオ、ハリキ、アゼスゲ、ミゾカクシ及びタチモ）及び亜優占種（チガヤ、トキンソウ、アキメヒジワ、サワトウガラシ、フタバムグラ及びホシクサ）の優占分布（筆者はこれを特に植生被覆が標本面積の $\frac{1}{2}$ 以上の場合に限定した）の頻度が約  $10^\circ$  を限界として著しい減少を示し、優占種は全体として傾斜角度との間に比較的明瞭な指数函数関係を示し、 $f=387.6e^{-0.411\theta}$ （ただし、 $f$ は頻度、 $\theta$ は傾斜角度）の実験式によつて示されることから、少なくとも、本貯水池における植群構造の発達及び破壊は、池底内傾斜の属性的要因から検討されるべきであることを暗示された。

筆者はこの観点から、特に東側と西側斜面における土壌層、気温、地温及び土壌含水量を測定し、比較検討したが、いずれも有効な差は認められず、土壌の化学的条件についても調査すべきであると考えられる。

### ○ベニバナハルユキノシタ（富樫誠・里見信生） Togashi, M. & N. Satomi : A New Form of *Saxifraga nipponica* Makino

ハルユキノシタの花は通常白色であるが、原先生の御高著ユキノシタ科〔大日本植物誌(1939)〕にも記されている様に「時ニ微カニ淡紅色ヲオビ、……」と記されているものがある。筆者等はこのようなものを富山県中新川郡大岩不動で得た。こゝは北陸地方としては比較的シダ植物の種類に富んでいるのが珍らしく、この地方としては採集の良い場所である。例えばカラクサシダ *Pleurosoriopsis Makinoi* Fomin がかなり豊富にあつて採集者をたのしませてくれる。又、ハコネシダ *Adiantum monochlanys* Eaton は北陸では数少ない産地である。

*Saxifraga nipponica* Makino form. *rosea* Togashi et Satomi, f. nov.

Flores rosei. Cetera ut in typo.

Nom. Jap. Benibana-haru-yukinoshita. (nom. nov.)

Hab. Honshu media. Prov. Etchû : Naka-niikawa-gun, Ōiwa (M. Togashi & N. Satomi, Apr. 13, 1958, fl.—Typus in Herb. Fac. Sci. Univ. Kanazawa)